

健康への

メッセージ

シリーズ 101

肝硬変とは

東陽病院副院長 伊藤 文憲

光町のみなさんこんにちは。今回は肝硬変について述べます。肝硬変とはその字の如く肝臓が硬くなることによりその働きが低下する病気で、原因は前号で述べたウイルスによる慢性肝炎が進行したものが大半です。

慢性活動性肝炎から肝硬変への進展は徐々に進行し、境界ははっきりしません。肝炎が進行すると肝臓の中で炎症による組織の破壊と再生が繰り返して行われて、徐々に線維化がすすみ、結果として肝臓が硬くなり、その重要な働きである蛋白合成や解毒作用の低下が見られます。また肝臓が硬くなることにより、消化管から肝臓に栄養を運ぶ血管である門脈が肝臓を通らずに別な道を通ることにより栄養障害や、血管が拡張し食道静脈瘤や痔核（直腸静脈）を起こし、その出血の危険性が生じてきます。

肝硬変にも進行度がいろいろあります。初期の肝硬変では肝機能検査値も変動が少なく、ほとんど症状はありません。この状態をいかにして長期維持するかが現在の診療の重要点です。労働の制限・禁酒や毎日の生活を規則正しく十分な睡眠をとるなどの生活の節制と、肝機能を落ち着かせる薬の内服が大切です。また合併症の予防のために定期的な検査（胃内視鏡・腹部エコー・腹部CT検査など）が必要です。

進行した肝硬変では、血液中の蛋白が低下し、全身の浮腫や腹水などが起こります。解毒作用の低下により血液中のアンモニアなどが高くなり意識障害も見られます。また、肝臓が破壊と再生を繰り返しているうちに悪性腫瘍が発生することもあります。

肝機能が悪化し、腹水や浮腫が生じた場合は、入院安静が第一です。利尿剤が投与されますが、蛋白質の低下に伴う場合には尿は出にくく、点滴により蛋白製剤を補給することが必要となります。高アンモニア血症による肝不全の対策として内服又は点滴によるアミノ酸製剤も有効です。また、出血性胃炎や食道静脈瘤の破裂による出血に対しては内視鏡的な治療により止血が可能となっています。

現在の肝硬変の診療に際しては肝細胞癌の発生に対する早期発見と治療が最も大事なことです。肝細胞癌の時に述べますが、小さな癌であれば内科的な治療が可能になっています。早期発見のためには定期的な肝臓内の画像診断が必要であり、腹部エコー検査が最も簡便で有効性があります。3〜4ヶ月ごとの検査がベストです。異常な肝臓内の影が見えたらCT検査やMRI検査にて確認し、治療を行います。

以上述べたように肝硬変にはいろいろな時期があり、それぞれの対策がとられるようになっております。定期的な通院により、検査を行い適切な判断をするためにも肝臓の専門医やそれと連携した医師にかかることが最も重要なこととしてしよ。

※東陽病院の休日当番日

4月14日(日)・5月3日(金) 午前9時〜午後5時

医師2名が待機・来院の際は電話を ☎0413335

「母親学級」開催
日時 4月26日(金) 午後2時から4時
場所 東陽病院2階 産婦人科外来
対象 制限はありません

こどもの日映画会

「ポケットモンスターセレビィ」



＝町立図書館＝
☎043311

- ・期日 5月5日(日)
- ・上映時間
1回目 午前10時
2回目 午後2時
- ・定員 各100名
- ・入場 整理券（無料）を4月20日(土)から図書館カウンターで配布します。

パソコンの基礎を
学びませんか

IT講習会

図書館では、本年度もパソコンの初心者を対象としたIT講習会を開催します。

文字入力的基础、文書作成、インターネットの体験、電子メール等の基本操作を学びます。

パソコンに興味があっても、触れる機会がない方はぜひ受講してみたいかがですか。

- 対象者 20才以上の方
会場 図書館2階学習室
内容 パソコンの基本操作（1講座・3時間講習を5回行います。）
定員 80名（1講座20名で4講座開催）

4月の休館日

8日(月)、15日(月)、22日(月)、26日(金)、29日(月)、30日(火)